

平成16年 1月 8日(木)

○	開 会	10時00分
○	産業局	10時00分
○	質 問	10時29分

問 提言の短期的な取り組みの中で特区の意見があり、現在ある環境リサイクル特区の今後の取組みについて考えるとあったが、新しい特区を作り、裾野をどんどん広げるようなこともやっていくべきではないか。そういったものが触れられていないことに何か意図はあるのか。また市長が今年度考えている「まつり」などの事業や、策定を考えているという農村環境政策や都心のまちづくり構想などは、どのように関連して行くのかというのが分からない。そのあたりの交通整理が必要ではないのか。

答 取りまとめの考え方としては、中長期的な考えは最終報告の中で取り組んでいこうというのがあり、中間報告では16年度に具体的な施策として展開できるものに絞ってやっていくという形で取りまとめた。懇話会の中でも地域の再生プランの中間報告としては中長期的なものも出すべきではないかとの指摘もあったので、現在、懇話会の会長と調整をしているところである。

問 観光振興で朝市など色々とイベントを行うと書いてあるが、それが経済の再生につながるとは思わない。姫路の魅力をPRすると言うが、姫路の魅力として城以外にどのようなものをPRしていくつもりなのかを教えてください。

答 城を中心として観光の散策ルートなどを発掘していきたい。広峯神社や増位神社、城の北側にある原始林の散策ルート等を市民にPRし姫路の魅力の再発見に努めてはどうかということを中間報告に盛りこむ。

問 姫路の中心街は魅力がない。よその観光地ではその街並みにその場所でしか無いような特産品を売っている。それに比べて姫路はそういったものがない。現状では観光客が姫路城を観光した帰りに街並みを散策しようかという気にはなれないが、どう考えているのか。

答 現在、建設局が城の前に作っている便益施設を利用して、じばさんビルが姫路にふさわしい特産物の土産物を取り扱う店を出店する予定で準備を進めている。ただ、姫路城の年間登閣者数が現在の70万人余りだと採算的に非常に厳しい計算だということで、姫路市民の方にも是非利用して頂きたいと考えている。

問 アーケードや道路を綺麗にしたところで、将来の地域経済の再生にはつながらないと思うが、どう考えているのか。

答 国の施策でも、商店街にアーケードを作ることは近代化ではないという意見も一部有り、姫路でもフォーラスの前の姫路銀座通商店街のように以前アーケードがあったが現在では取り外しているような所もある。他都市でも同じようにメインの商店街のアーケードを見直しているような所もあるが、雨天時の対応を考えると行政としてはそういったものの助成は維持していく必要があると考えている。

問 現在の計画で本当に観光客が増えると考えているのか。

答 すぐに姫路への来訪者が増えるというような施策はないと思う。ただ、姫路に住んでいる市民が自分の住む街を愛してもらうところから始めていきたい。その上で他都市と比べてこれが足りないというようなことを提案してもらい、それを行政が実現していくという形で進めていきたい。

意見 姫路の中心街は店主が大きく意識改革をしないと市民すら買い物に行かなくなってきている。商工会議所を中心として店主の方から計画を出していくようにしないと中心街の賑わいは出てこないと思う。

意見 現在の懇話会は経営者側からの視点でものを見ているようであるが、消費者からの視点、特に消費の中心となる主婦の感覚から見た商店街の在り方について議論が必要である。アーケードやカラー舗装といった議論より、どのようにして消費を増やすのかとい

った議論の方が必要ではないか。

製造業なら製造業で農業なら農業で本当に苦労している人達が、行政に環境整備についてどのように物を申していくのかということで新しい政策が出てくると思う。懇話会ではそういった当事者の本当の声を出せるようにすべきである。

この4月から国立大学が法人化されることに伴い、産学共同が大学の側からも積極的に論議されてきている。姫路には国立大学は無いので、その点でも他の都市と状況が違って来る。また産官学ときれいごとを言っているが、それを実現するためには間に入るコーディネーターが必要となる。姫路はその視点が抜けており、そういう点も含めて議論すべきである。

観光行政についても、海外からの観光客を受け入れるということが、この報告では書かれていないが、総合計画の第二次実施計画では海外の観光客を誘致するために組織的に県との連携を図ると出てきている。これでは、総合計画の方が先に行っているような形になってしまっている。これから分科会でやっていくというのはわかるが、もっと核心をついて議論をしなければならない。評論家による経済再生プランであっては、具体性がでてこないように思う。

分科会の中では、もっと突っ込んで各論ごとに話を進めてほしい。

要 望  
問

神戸市が5年ほど前に医療産業都市構想を宣言したが、軸がはっきりとしているとその都市に対する世界中の目がはっきりとしてくる。それに比べて姫路市の再生プランの報告を見ると予算要望のための懇話会ではないかという気がして仕方が無い。もっと大きな姫路市の軸となるような都市宣言をできるようなインパクトのある産業構想を打ち上げてもらいたい。懇話会ではその方向付けを行ってほしいと思うが、考えを聞かせてほしい。

答

市長もはりまの国の技術立国と言っているように基本は製造業が基本にくると思う。その上での観光業やサービス業であるが、お互いに関連して地域の活力を生み出していくものであって、どちらかという議論にならないと私は思っている。

問

姫路の街は魅力のある店舗が出店しづらいような雰囲気があると商工会議所の会頭が以前述べたことがあった。それは行政も商店街も同じような方向でやっているせいであると思う。行政は対立してでもはっきりと違う立場、違う意見を持って真剣に考えないと姫路の駅前には良くならないと思う。

答

確かに都市型百貨店やシティホテル等は駅前に立地しておらず、現在の規模でそういったものが立地していない都市は非常に珍しいと思っているので、今後、そういったものの立地環境は整えていきたいと考えている。

問

市長は新年の挨拶で、姫路は神戸や大阪に比べて10円20円値段が高いが、姫路のブランドを育てるために姫路の物を購入してほしいと発言されたが、市長自らが姫路の値段が高いと公言したことになる。冗談かもしれないが、市長のそういう発言は地域経済にとってマイナスにしかならないのではないか。

答

市長は常に農産品の地産地消を唱えておられる。姫路市内の農家で生産された軟弱野菜は市場に持っていくと北海道や長野、宮崎といった産地で生産されたものと比べてどうしても卸値は少し高くなる。しかし、地元で誰が作ったのか顔のわかる野菜については少しぐらい高くても売れるという発言を市場でしたことがある。そういったニュアンスでの発言であったと私は思う。

問

先ほどの発言で技術が一番でサービス業がその後と答弁があったが、神戸市の医療産業のように、姫路にこれはという軸をつくる懇話会であってほしいと思うがどうか。

答

懇話会の中でも中心の軸を作るべきではないかという議論があり、4つの提言でもプライオリティー、順位をつけるべきではないかという意見があった。どこに軸足を置くのかという議論については、これから最終報告をまとめるに当たって考えていきたい。

問

武蔵館の後へ観光振興課が移ると聞いたが、何か新しいことを考えているのか。

答 16年4月に(移転を)予定しているが、あの施設を観光行政の拠点にしようと位置付けている。市の行政の本庁機能である観光振興課と観光振興課内に事務局のある観光協会、民の方で積極的に行っているTMO構想を担当している商工会議所のまちづくりステーションが武蔵館の向かいのビルにある。姫路の観光の中心である姫路城や中心市街地等の活性化を現場において商業者と連携することで密着した行政ができるのではないかと考えており、観光振興課、観光協会、まちづくりステーション等を一緒にして観光行政を司る行政機能と姫路市への来訪者へのインフォメーション機能を備えた施設として活用して行きたいと考えて、予算要求を行っているところである。

問 街を案内するようなボランティア等を配置していくつもりはあるのか。

答 どのような価値を付加するのかは現在検討中であるが、レンタサイクルの置き場は設けるようにしている。

要 望 観光客に役立つよう施設にするために看板等も大きくするようにしてほしい。

問 武蔵館のときには物を売っていたが、もうそれはしないのか。

答 便益施設の方で販売する予定であるため販売等は行わない。

問 市独自の雇用対策はどれだけ盛りこんでいくつもりなのか。

答 緊急雇用で行っている分については、このような情勢であるので、財政当局には16年度も引き続き行ってほしいとお願いをしているところである。

要 望 雇用を図るということを提言の形で付け加えていただきたい。

問 先ほど分科会で女性委員を参加させたいとあったが、公募に応じた20人の内、女性は何人いたのか。

答 2名である。

委員長 公募委員以外にも商店街関係などで女性委員を参加させることが、市のほうでできるのか。

答 それは可能であり、商店街の方にも女性経営者を出してほしいというお願いはしている。

○ 終 了 11時35分

○ 閉 会 11時40分